

※通し番号は提出順になります。

通し番号	委員名	意見	対象アンケート番号	回答
1	荻原委員	自由記載欄に意見を書きやすいように行線(点線)を入れる。	全体	対応しました。
2	荻原委員	小中高校生保護者用の設問の順番を入れ替える。 問1、問2はあなた自身で、問3、4、5はお子様への設問なので、問6の後に変更する。	②	インターネット回答時、対象者を案内する表示をすることで、混乱がないよう対応させていただきます。
3	荻原委員	設問の項目が多く、最後まで回答してくれるのか不安が残ります。また、集計して分析する方も大変な作業になるかと思えます。もう少し設問数を少なくする事が必要だと思えます。	全体	設問数の寡多の感じ方はそれぞれかと思えますが、最低限必要とした設問となっております。依頼文においてアンケートの重要性と、答えにくい質問は飛ばしてもらっても良いことなどを示しながら協力をお願いしてまいります。
4	寺嶋委員	市民アンケートの対象者人数1,800人程度抽出とありますが、どのような方法で抽出されるのでしょうか。地区、年代、男女の行動の違い等、バランスの取れた抽出でもっと多くの人の声が聞けたらと思います。	④	抽出は無作為抽出で行いますが、アンケート対象者に偏りが出ないよう留意します。
5	寺嶋委員	とうみレッツ号の利用者アンケートについて、デマンド交通利用者対象、車内設置、1週間程度となっていますが、今まで利用した人の意見が聞けるようにアンケートの対象者に加えてほしいです。	⑥	アンケート期間は3週間程度に延長したいと考えます。 後段の今までの利用者の方へのアンケートについては、市民アンケート等にもデマンド交通に関する設問があることから、そちらで代えたいと考えます。
6	宮原委員	小中高校生保護者用9ページ問9④ 市民アンケート7ページ問6④ コロナ禍による大幅な減収に伴い利用実態に応じたダイヤ編成として、本数削減の方向で調整させていただいておりますのでご承知おきください。	②④	ご意見として承りました。
7	宮原委員	回答欄2 具体的にどの駅に何時についてほしいという設問(朝・夕)にしていただければ、ダイヤ設定の際の参考にさせていただきます。	②④	しなの鉄道様利用の設問ではないですが、高校生の通学に関して、利用駅と利用時間帯について聞きたいと思えます。
8	宮原委員	回答欄4 「料金」とは運賃のほかには料金のことを指しますが、「運賃が高い」ではないでしょうか。しかしながら、運賃につきましてはコロナ禍による大幅な減収に伴い、経営そのものが問われる危機的状況にあることをご理解ください。	②④	「運賃」に修正いたします。 その他ご意見として承りました。
9	宮原委員	回答欄5 どのような割引が必要とお考えか具体的にお答えいただければ割引乗車券設定する際の参考にさせていただきます。しかしながら、割引乗車券につきましてはコロナ禍による大幅な減収に伴い、経営そのものが問われる危機的状況にあり、その状況の中でさらに割引を行うことによる減収に対する経営体力の低下をご理解ください。	②④	ご意見として承りました。
10	阿部委員	調査期間が9月から10月とありますが、もうすでに送付済みなのではないでしょうか、この時期の意見を表決では9月というのは難しいのではないのでしょうか。また、高齢者の聞き取りアンケートが先行実施済みとなっておりますが、9月の高齢者宅へ温泉券を配布することがありましたのでそれに併せてということでしょうか。それならこの表決がもう少し早い時期だったらよかったですかなと思われまます。(実際の実施は、6月から7月でした。)	全体	高齢者聞き取りアンケートは6~7月の高齢者台帳更新時の個別訪問時に実施済みです。その他のアンケートは、今回の表決内容を反映させた上で実施予定です。実施時期が予定よりもずれ込んでいることをお詫び申し上げます。
11	阿部委員	⑥のとうみレッツ号利用者アンケートの調査期間は、1週間ではあまりにも短いです。せめて1か月は聞いてほしいです。そのほうが、より、実態がわかるのではないのでしょうか。	⑥	アンケート期間は3週間程度に延長したいと考えます。
12	阿部委員	資料5ページの(4)のアの満足度についての設問は、あえて設けないとありますが、これは、その通りです。(4)全体に、大事でかつ必要なことです。スマホもこれを機会に、全体に広がりがあればいいです。どこかの町村も高齢者に、スマホを貸し出して予約する方法を実施していました。	全体	ご意見として承りました。 スマホ活用の方策は、活性化協議会でも検討・協議をいただきたいと考えております。
13	阿部委員	高齢者向けのアンケート聞き取りの際、免許証の返納で、レッツ号の乗車券が僅かですが配布されることも付け加えていますか。(現状よりもう少し増やして)聞き取りの際に、4の困っている外出時の移動の自由な点をお聞きした時の内容は、民生児童委員さんからお聞きしたのですか。	①	具体的な内容の聞き取りは行っておりません。

通し番号	委員名	意見	対象アンケート番号	回答
14	阿部委員	小中高校生の保護者アンケートの②と③は順序を入れ替えたほうが良いと思いますが。理由は、家族構成により、その家族の子どもの送迎のことが必要かどうかどうか理解できるためです。	②	原案どおりとさせていただきます。
15	阿部委員	また、問2の④-3の10年を見据えたときの運転ですが、小中高校生の親の年代では、少しナンセンスな質問に感じますが。子育て真っ最中の親がここまで認識するのでしょうか。	②	保護者アンケートである同時に、市民アンケートも兼ねているため、年代別の運転継続への意向の分析データとしたいと考えております。
16	阿部委員	同じ保護者の問3の④の設問、「上記で①で8. および②で6. と回答した方がお答えください。」の質問は、どう解釈するのが解りませんが、いかがでしょうか。	②	問3.②③で「家族等による送迎」を選んだ方に回答いただく箇所ですが、設問番号が誤っておりましたので修正いたしました。
17	阿部委員	同じ⑤の「通学にバスを利用しない理由」の欄に、定時定路線バスがない方は、回答できませんので、「バス路線がない」項目も足しておいたほうが解りやすくなりませんか。(バス路線は、市内にあまりないように考えていましたが。特に滋野は。)	②③④	対応しました。
18	阿部委員	同じ⑦ですが、「通学援助制度」の地区、区域は限定的ではありませんか。該当していない区域では、この希望の答えが出しにくいと思いますので、現在このような制度がありますが「該当される場合」はお答えくださいとか、質問の仕方を工夫されるのはいかがですか。	②	インターネット回答時、小中学校のいずれかで通学援助対象地区の方に設問が表示され、「お住まいの地区が小学校または中学校の通学援助対象区の方にお聞きます。」と注記するようにいたします。
19	阿部委員	5ページ、問6の設問「日常の外出で頻度の高い移動パターン(2つまで)」の部分ですが、この「2つまで」は理解しにくいので、「もっとも頻度が高い、2番目に頻度が高いの2パターン」についてお答えください。などではいかがですか。なぜかといえば、次ページの6ページで迷いましたので。(市民アンケートのページ3も同様)	②④	対応しました。
20	阿部委員	同じページの「市内の移動先の施設・場所」に北御牧公民館はありますが、他の4地区の公民館がありません。全部並べなくても書き方を工夫してください。	②④	対応しました。(田中は中央公民館が地区公民館を兼ねるため、滋野、柵津、和の各地区公民館を追加しました。)
21	阿部委員	商業施設にみんなの利用が多いコンビニがないのですが、敢えてですか。	②④	選択肢は日常生活で利用者が多い施設を選択できるように列記しましたが、コンビニはスーパーよりは利用頻度が低いと推測され、また市内の店舗数が多く、全てを列記すると選択肢が増えすぎてしまうため、選択肢からは除きました。 ※ドラッグストアも利用頻度の点から選択肢からは除きました。
22	阿部委員	7ページ問7は、2ページの④-3(10年後の質問)の続きですか。	②	問7はとうみレッツ号に関する質問です。
23	阿部委員	高校生のアンケートですが、④の「通学にバスを利用しない理由」の項目に「定時定路線バスがない」の項目を入れたらどうでしょうか。	③	対応しました。
24	阿部委員	同じ3ページの④の質問に、他と同じで、「8、飲酒の機会がある時に利用」の項目は消したほうが良いと考えますが。ページ4の④も同じ)	③	対応しました。
25	阿部委員	同じ4ページの問6の3②-2の項目に「自宅そばを通る定時定路線があれば利用する」を入れたらどうですか。(運行は無理かも)	③	②-2の「2.運行区域が広がる」で回答いただけたと考えております。
26	阿部委員	高校生のアンケートの末に、将来公共交通は、どうなったらいいか。もし、県外に転出した後、東御市に戻ってきたとき、公共交通は、どうなっていてほしいかなど、具体的に、未来ある高校生に質問することが何か、いいヒントになるかもしれないので、そんな質問を検討できませんか。	③	対応しました。
27	阿部委員	市民アンケートのページ6の②に、「家のそばを通っていない」を入れたらどうですか。選択しやすいかも。	④	対応しました。
28	阿部委員	来街者用の問1の④のお住いの質問の「1、東御市内」という項目が気になります。市外から、外から来られた方が対象のアンケートではないかしら。	⑦	「来街者」アンケートとしていますが、湯楽里館等の施設でもアンケートを配布するため、市民の回答もあり得ることから、選択肢に「東御市内」を入れました。誤解を招くため、「来街者」アンケートの名称を「観光施設等利用者」アンケートに変更します。

通し番号	委員名	意見	対象アンケート番号	回答
29	関野委員	<p>問い7の①に「運行の認識」とありますが、街中で見かけるものなので、多くの市民は運行の認識はあると思います。ただ、その認識がレッツ号に対しての正しい認識とは異なる可能性があります。</p> <p>以前、子育て世代の知人たちとレッツ号の話をした際に、レッツ号は、シニア層に向けてのものというイメージがあり、マイカーを運転できる自分たちが利用していいものとは認識していない人がいました。また、子どもだけで乗車させていいかわからないと答えた人もいました。私自身も、病院や食品の買い出しなど、生活に必要な最低限の移動に利用していいものという認識でいます。趣味や娯楽、例えば、ワイナリーや東御産のワインが飲める店へ行く時(飲酒をする時)の交通手段として、レッツ号を使っていいのであれば、具体的な利用例を周知すれば、利用者は増えるはず。東御産ワインの普及活動にも繋がり、双方にメリットがあります。</p> <p>よって、この問いは、レッツ号に、誰が(シニア層だけでなく誰でも)、何のために(病院や食品の買い物以外でも、利用目的を問わず)利用できるということや利用例を記載した上で、レッツ号について、正しく理解をしていたか問うべきです。設問に利用方法や利用例を記載すれば、そこから利用が増える可能性もあります。</p> <p>これは、2-3の「利用方法がわからない」、⑤-13の「予約や乗り継ぎなど仕組みがわかりにくい」とは問いの目的が違います。</p>	②③④	<p>アンケートの機会を捉えて周知をするため、市内の公共交通機関と現状の課題をまとめた資料を案内文裏面に添付します。</p>
30	関野委員	<p>問11ですが、運行事業の経費の総額だけ示して、公共交通の是非を問うような質問は、経費の削減を求めるような、ある種の圧力に見えます。</p> <p>公共交通は、東御市でも掲げているSDGSの理念「誰一人取り残されない包摂的な社会をつくる」ことを達成するにあたり、必要なことです。</p> <p>また、気候危機を少しでも緩やかにするため、また国や県が打ち出している2050年のゼロカーボンに向けて、公共交通は欠かせません。一昨年の台風19号の被害は、記憶に残るところだと思いますが、ゼロカーボンに向けて国民が一致団結して行動していかない限り、今後も市内・県内でこういった被害が出るのが予測できます。7000万円という経費は、公共交通の運行事業費として計上されてはいても、災害から身を守り、未来を守るための投資です。また、金額は利用者が多くなれば、7000万円から削減できる可能性もありますし、利用が増えれば、増便するなど利便性も高まります。この問いを出すのであれば、こういったことを全て説明した上で、市民に問うべきだと思います。</p> <p>来年度から使われる高校生の教科書は、今まで以上にSDGSや気候変動に関して、多くのページが割かれています。その次の改定では、今年8月に国連の気候変動政府間パネル(IPCC)の「今起きている気候変動は、人間の活動によるものだと断定する」という報告を受け、さらにこういった内容が色濃くなるでしょう。今の10代~20代は、こういった教育の成果もあり、気候変動に関して、強い危機感を持っています。一方、働く世代と言われる30代以上の中には、気候変動が自分たちの生活スタイルによって起きているという自覚がない人も多く、若い世代と考え方に大きな差があります。</p> <p>若い世代は、マイカーが排出する温室効果ガスが全体を占める割合が高いこと、また自分たちのライフスタイルによって削減できるものということで、公共交通・コンパクトシティの重要性を感じています。今のままの公共交通では、進学や就職を機に公共交通が充実している自治体やコンパクトシティを打ち出している自治体に流出する可能性も考えられます。</p> <p>東御市の人口推移の予測は環境省からのデータをもとに算出しているのだと思いますが、環境省のデータは、あくまでも過去の推移を基に算出されているものであり、市の政策によって人口は下にも上にもぶれる可能性があります。</p> <p>公共交通に関しては、単純に利便性や市の予算だけの問題ではなく、市民に対して、もっと丁寧な説明が必要だと思います。台風や雨による被害を減らすためには、ゼロカーボンを達成しなくてはいけないこと、そのためには公共交通の利用者を増やすことが不可欠であることを解説した上で、利用者を増やす協力を求めるべきです。市内の学校と連携して、SDGSや環境教育の一環で、公共交通を考える時間があってもいいと思います。</p> <p>このアンケートは、交通弱者の問題を可能な限り解決するという最優先課題を達成するためだと思いますが、この協議会では、ゼロカーボンといった国や県が打ち出している方針を共有し、中長期的に東御市内にどのような公共交通が必要か、その目標に向かってどう解決して行くかといったことも、協議することが必要だと考えます。</p>	②④	<p>ご意見として承りました。</p> <p>29の資料を添付することで、公共交通の課題や必要性について回答者に示します。</p> <p>「将来的に公共交通が維持確保していくため」どのような施策が必要か(また必要でないか)は、回答される方のお考えにより異なることから、現状の市民の皆様の率直なお考えをお聞かせいただきたいと考えております。</p>

通し番号	委員名	意見	対象アンケート番号	回答
31	関野委員	新型コロナウイルスの感染警戒度が高い中、仕方がないとはいえ、書類だけのやりとりになってしまったことが残念に思います。この回は「協議会」ですので、活発な協議・議論をする場であるべきなのに、書面のやりとりでは、提案を承認するだけの会になってしまいます。前回、参加者の中で役職のついた方の「代理」の方が数名いました。都合のつかない方は書類のやり取りやオンラインでの参加にさせていただくなど、工夫次第で会場内の人数を減らすことはできます。次回までに、コロナ禍でもリアルに開催していただく方法を模索していただきたいと思います。	その他	ご意見として承りました。
	平林委員	①高齢者すでに「先行実施」としてありますが、最も大事な項目であり、あらかじめ意見を求めてほしかったと思います。意見は別項	①	高齢者聞き取りアンケートに関しては、すでに実施済みのため、ご意見として承りました。
32	平林委員	■高齢者の移動に関する聞き取り調査について アンケート番号②の高齢者調査は調査対象者への面接調査により実態を生でつかむことができ、かつ対象者が4500人にのぼる大事な調査です。お示しの質問票が調査票そのものであるとすれば一民生委員さんの負担を軽くしようとしたのかもしれませんが、簡略にすぎ、せつかくの調査が生きた形になりません。	①	
33	平林委員	とりわけ設問2の「日頃、よく行かれる場所」については、対象項目はよいとしても、それが市内の施設なのか市外の施設なのか、その頻度および利用する交通手段はどうか、特に日頃の買い物、医療機関通いなど高齢者の交通事情を把握する詳しく把握する必要があります。「市民アンケート」の「問3」のような項目です。設問3もこれに対応したものにすべきです。	①	
34	平林委員	問4については不自由度とともに「何に不自由しているのか」の具体的設問が必要で、これにより解決すべき課題が具体的に浮かぶでしょう。	①	
35	平林委員	設問5のデマンド交通に関しては簡略すぎず。「市民アンケート」にあるとうみレッツ号の利用状況および定時定路線バスの利用状況のように具体的に聞くべきでしょう。	①	
36	平林委員	高齢者アンケートには定時定路線バスの利用についての調査項目がないのはなぜか。必要ではないか。とりわけこの路線バスの利用では自宅からのバス停、目的地からのバス停の距離、および利便性を確保する運行本数が問題になります。以下の質問項目を設けたい。「バスを利用する場合、バス停までの歩行可能距離はどれくらいですか? ①300 m以内、②300~500m、③500~1km、④1km以上でも」とし、「利便性確保のためには日に往復で何便あったらよいと思いますか ①2便、②3便、③4便、④それ以上」	①	
37	平林委員	②および③の小中高の児童生徒関係は保護者を含めると対象者は4750人と多数におよびます。配布は学校経由あるいは名簿が明確な郵送となっていますから、ほぼ全数になると思われます。その回収は「オンラインのみ」となっています。現状のオンラインの活用状況からみて回収率の低下が懸念されます。学校での児童・生徒を通じて回収協力を周知するとともに郵送による回収も検討すべきではないでしょう。	②③	小中高校生の保護者及び高校生は調査件数が多いことから、オンライン調査で集計作業の効率化を図りたいと考えます。 小中学校については、事前に重要な調査であることの説明と協力をお願いする依頼文書を学校経由で紙配布し、その後、学校から保護者への連絡用メール配信システムを使って、回答用URLを保護者のスマホやパソコンへ送信する予定です。(小中学校校長会で承認済) 学校からの連絡手段もメールが多くなっており、保護者世代のスマホ等の所有率は高いと考えられることから、ある程度回答いただけると考えております。
38	平林委員	⑤⑥の定期定時路線バスおよびデマンド交通の利用者調査は利用者の実際を直接掌握する大事な項目です。しかし、「車内設置」で調査期間を「1週間程度」としているのは年齢層や利用実態を考慮すれば短すぎます。乗車の都度、アンケートへの回答の協力を伝達・周知するとともに調査期間は3週間程度を見るべきではないか。	⑤⑥	アンケート期間は3週間程度に延長したいと考えます。
39	平林委員	■小中学校生保護者調査について アンケート番号②、同3の小中高校生と保護者調査は、内容はおおむね良いのですが、不必要項目の精査整理が必要です。質問自体に意味がないものがあり回答に混乱を招きます。「問2」の設問②③では保護者への質問であり属性の「7高校生」「8小中生」、「9学生」は不要です。設問6の自由度は必要ですか。	②	前段対応しました。 後段⑥に関しては、このアンケートは保護者アンケートであると同時に市民アンケートでもあるため、移動に不自由している市民の割合を、年代や運転免許証の所持などとの相関も見ながら分析としたいと考えています。

通し番号	委員名	意見	対象アンケート番号	回答
40	平林委員	「問3」の質問②の通学方法また質問③および質問8の移動手段にある「1とうみレッツ号」の利用の聞くのは不要(現行では通学手段としてレッツ号は利用できないことになっています。もし入れるとしたら今後利用可能にすることを考えているなどの注釈が必要です)	②	運行開始当初は利用者数の多く、通勤通学利用は制限していた経緯がありますが、「通勤通学にレッツ号を利用できない」という明確な規定があるわけではないため、選択肢としては残します。
41	平林委員	質問⑥の設問に利用できるバス停までの距離についてをくわえ、「バス停までの歩行可能距離はどれくらいですか? ①300m以内、②300~500m、③500~1km、④1km以上でも」を「1,バスを利用させたい」の後に加える。	②	「バス停まで遠い」以外を選択されている方には設問が合わないため、この場では設問を設けず、若干、趣旨が異なりますが、世帯状況の中で最寄りバス停までの徒歩時間を訊ねていますので、そちらと「バス停まで遠い」と回答される方の相関を見ることで代えたいと考えます。
42	平林委員	また質問②および質問③の「3、2以外の路線バス」も不要です(現在、小中学生が通学に利用できるは「他の路線バス」運行していません)。	②	小中高校生の保護者共通のアンケートであり、市内を走る路線バスの佐久上田線は令和3年9月末で廃線となりますが、高校生が利用できる市境から他市町村へ向かう路線バス(例:小諸市愛のりすみれ号御牧原線、千曲バス称津線(中吉田~下秋和)など)があるため、選択肢としては残します。
43	平林委員	また質問⑧の通学援助の希望では高校進学後の「駅までの交通手段」で公共交通の提供を考える場合は「学割」の検討が必要になりますが、こうしたことも考慮するのですか。	②	⑥の質問で「現状のバスの問題が解消されたら、バスを利用させたい」という方が多くいらっしゃれば、通学のための移動手段の提供の是非やそれに伴う料金体系等の検討が必要になってまいります。調査結果を基に、活性化協議会で検討・協議をいただきたいと考えております。
44	平林委員	また質問②通学方法の1,2,3,4にある「→問4へ」は不要(問4は放課後および休日の児童生徒の外出に関して問うもので登校下校の通学時の移動手段利用とは別課題です)	②	これは、この回答を選択した方は回答不要な設問は飛ばして、次の設問へ行っていただくための誘導です。 ここでは児童生徒の通学に公共交通を利用させていない方から、なぜ公共交通を利用させないか、今後公共交通を利用させる余地があるかを掘り下げて聞きたいため、現状で公共交通を利用している方に不要な設問は省略されます。 インターネットで回答いただく際は、回答不要な設問は非表示にされ、自動的に次の設問へ飛ぶようになります。
45	平林委員	問4の放課後の移動の質問の「1自宅にいる」の末尾の「→問5へ」は意味不明。質問内容が異なる。	②	44に同じです。 帰宅後自宅にいる方は以下の移動について回答いただく必要はございません。
46	平林委員	問5のこどもの休日の外出では、質問の「2」の末尾にある「→問6へ」は「外出することがない」のだから意味不明。もし「1移動することがある」について「問6へ」とするのなら、問6にある「あなたの日常の外出」の「あなた」=保護者のことなのだから、児童生徒の休日の移動と混乱を起こすことになる。何をききたいのかが疑問となる。	②	44に同じです。 休日に外出しない方は以下の移動について回答いただく必要はございません。 アンケート全体の順番について、2の荻原委員のご指摘への回答のとおり、インターネット回答時、対象者を案内する表示を差し込むことなどで、混乱がないよう対応させていただきます。
47	平林委員	また質問6の「1」のレッツ号、「2」の「4」のスクールバスは運行していないのになぜ選択項目に入っているのか。	②	レッツ号に関しては40のとおりです。 また、蓼科高校が田中駅からスクールバスを運行しています。
48	平林委員	問6の「あなたの日常」では「最も頻度が高い」「2番目に高い」の2回答となっているが、保護者は仕事と家庭生活など複合的な移動を常としており、2項目では実情を把握できないのでは。少なくとも「3番目に高い」を加えるべきではないか。	②	「日常」の移動の頻度に関してお訊ねする中で、3番目の頻度は「日常よりも少し特別」な移動になると考え、2番目までとしています。
49	平林委員	問7のレッツ号の利用状況の質問5運行に対する不満の質問項目では15項あたりで「運転手やオペレーターの対応が悪い」を付け加えてほしい。これは他の調査票の同じ項目も同様に。	②③④⑥	対応しました。
50	平林委員	問8の定時定路線バス利用の設問では、高齢者アンケートの項で指摘したバス停からの距離及び運行本数希望の設問を新設・挿入する。	②③④	対応しました。

通し番号	委員名	意見	対象アンケート番号	回答
51	平林委員	<p>■高校生調査について</p> <p>アンケート番号③高校生調査については基本的には小中学生保護者調査と同様に不適切な選択項目があります。まず問1の属性については、より明確にするため小中高等学校保護者調査の問1の質問①の住んでいる地区、質問2の最寄りの駅及びバス停までの所要時間の項を追加すること。利用要望につながります。</p>	③	高校生の回答にも居住地等の基本情報を追加しました。
52	平林委員	問2の通学状況について。質問 1の通学方法および質問2の駅までの移動手段にあるレッツ号は通学には使用不可なので選択肢にはなりません。	③	40に同じです。
53	平林委員	またこの項の質問⑤「バスを利用するか」の設問に利用できるバス停までの距離についてをくわえ、「バス停までの歩行可能距離はどれくらいですか? ①300m以内、②300~500m、③500~1km、④1km 以上でも」を「1, バスを利用させたい」の後に加える。	③	41に同じです。
54	平林委員	問3の下校後、問4の休日の外出の「2以外の路線バス」「通学用バス」、レッツ号も休日には運行していません。	③	路線バスについては42に同じです。
55	平林委員	問5のレッツ号の設問については、高校生対象の質問が高齢者や壮年層とおなじでよいのか。制度上通学用以外の利用目的なら利用可能であり、その可能性をさぐるのならもっと魅力や利便性がわかる聞き方の工夫が必要ではないでしょうか。	③	設問自体は他のアンケートと同じ設問としますが、29の関野委員のご指摘に回答したとおり、デマンド交通を含めた市の公共交通機関を理解いただくため、まとめた資料を添付します。
56	平林委員	<p>■市民アンケートについて</p> <p>アンケート番号④の市民アンケートでは、高齢者、小中高校生の間にある青年壮年層の実態を把握するものである。アンケート番号②の保護者調査と実態的には重なるものとなる。したがった内容はほぼ同じものとなるが、問3の「あなたの日常の外出状況」では、アンケート番2の項で追加注文したのと同様にこの層の市民の多くは仕事と家庭生活など複合的な移動を常としており、2類度では実情を把握できないのでは。少なくとも「3番目に高い」を加えるべきではないか。</p>	④	48に同じです。
57	平林委員	問5の定時定路線バスの利用についての設問では、高齢者への質問と同様にバス停からの距離などを加え、以下の質問項目を設ける。「バスを利用する場合、バス停までの歩行可能距離はどれくらいですか? ①300m以内、②300~500m、③500~1km、④1km以上でも」とし、「利便性確保のためには日に往復で何便あったらよいと思いますか ①2便、の3便、34便、⑤それ以上」	④	対応しました。
58	平林委員	<p>問8の市民の公共交通についての認識についてはお示しの設問の前に公共交通整備の重要度についての市民の考えを聞く設問を新設してもらいたい。</p> <p>たとえば「地域で生活していくうえで公共交通網を整備充実していくことについてどう思われますか」と問いかけ、</p> <p>① とても重要 ② どちらかといえば重要 ③ どちらともいえない ④ あまり重要ではない ⑤ 重要ではない ⑥ わからない</p> <p>を選択してもらおう。</p> <p>現在の質問については「費用面」項では「④運賃の値上げ」のまえに「○運賃を値下げし、利用しやすくする」を挿入新設しましょう。</p> <p>アンケート自体への意見は以上です。多岐にわたりますがご検討ください。意見についてなにかあればご連絡ください。</p>	④	前段については、検討すべき項目の中で、ネガティブな設問（例：①③）とポジティブな設問（例③）があり、その割合で回答者の公共交通に対する考えが類推できると考えます。後段対応しました。

通し番号	委員名	意見	対象アンケート番号	回答
59	平林委員	<p>【お願いとおたずねがあります】</p> <p>■公共交通を楽しく学ぶ勉強会について 7月からこれまで4回おこなわれていますが(初回を除きオンラインだったようですが)、私は体調をこわし、いずれも参加できませんでした。各回の映像資料や紙資料を提供してください。</p> <p>■実証試験ライデンの結果の活用について 実績についての分析は紹介されていますが、今度の計画策定にあたってそれをどのように活用するのか、しないのか、または結果をふまえて新たな方向を検討するのか、今後の方向性がわかりません。ご教示願いたい。今後の交通計画策定にあたって新交通体系構築へ提案したいことがあります。</p> <p>■その他の実証試験について いろいろ計画がされていますが、その試験内容についての資料を提供してください。</p> <p>■他自治体の先行例を参照することについて 東御市での検討に参考となる先行例を収集していたら提供してください。公共交通網再構築にあたっては住民参加が重視されます。東御市の場合、地域づくりの会も含めせっかく多方面から参加しているのですから、各委員の皆さんがそれぞれの利害関係もふまえて調査研究に参画していくことが大事です。先行自治体の実践例からも学ぶことが必要だと思いますが、何か計画はありますか。これからの協議会としての検討はどのようになっていくのでしょうか。</p>	その他	ご意見として承りました。
60	長野運輸支局	<p>【全体】</p> <p>・アンケート調査の目的については、紙でもWebでも、その主旨をお示しいただくかと思いますが、このアンケート結果が、利用しやすい公共交通体系を今後築いていく上で重要である点と、お答えいただく内容も多い(かかる大凡の時間も示し)が、是非ご協力をいただくようご依頼いただければと思います。</p>	全体	対応しました。
61	長野運輸支局	<p>・回答内容は個人情報を含むものもあり、回答内容は厳重に管理する旨申し添え願います。</p>	全体	承知しました。
62	長野運輸支局	<p>・その他欄については、その他を選択し、仮にその内容が未記入であってもエラーとしない。</p>	全体	選択の分岐に必要なものは必須回答となりますが、その他はすべて自由回答となります。
63	長野運輸支局	<p>・(理解不足で恐縮ですが)複数のアンケートがありますが、同一人が複数のアンケートに答えなくても良いように設定いただければと思います。</p>	全体	抽出対象から小中高校生の保護者を除くことで、重複しないように調整を行います。
64	長野運輸支局	<p>【小・中・高校生保護者用】</p> <p>・問2⑥ 階→回</p>	②	修正しました。(1が「5日」であるため、「～2日」としました。)
65	長野運輸支局	<p>・問3② 「東御市定時定路線バス」と「それ以外の路線バス」についての説明は前段で示しておく必要はないか(何を指しているのか理解いただければそのまま結構です)(以降及び他アンケート同様)</p>	②③④	29の関野委員のご指摘に回答したとおり、デマンド交通を含めた市の公共交通機関をまとめた資料を添付します。
66	長野運輸支局	<p>・問3⑦ 「その他」欄があってもよろしいかと思います</p>	②	対応しました。
67	長野運輸支局	<p>・問4④ 市内・市外を選択の上、「具体的な場所」が仮に未記入でもエラーとしない(以降及び他アンケート同様)</p>	②③④	選択の分岐に必要なものは必須回答となりますが、その他はすべて自由回答となります。
68	長野運輸支局	<p>・問7② 3.②-1 選択肢「自家用車などの他に便利な移動手段がある」がわかりづらい(以降及び他アンケート同様)</p>	②③④	修正しました。(→「自家用車など他の移動手段の方が便利」)
69	長野運輸支局	<p>・問9④ 選択肢3. なし</p>	②	修正しました。
70	長野運輸支局	<p>【高校生用】</p> <p>・問1① 性別「3. その他」は不要では。設定理由は理解しますが、ここでは3択でもよろしいかと思います。(他アンケート同様)</p>	全体	性別を問う設問は、世情でもまだ過渡期であると考えますが、現状でできる対応として男女どちらでもない方：その他 回答したくない方：無回答として設定しました。
71	長野運輸支局	<p>【来街者用】</p> <p>・問2②以降 目的に通勤・通学があるので、理由にも(それ以降にも)、これに対応した選択肢も必要では。</p>	⑦	対応しました。

通し番号	委員名	意見	対象アンケート番号	回答
72	倉嶋委員	<p>コミュニティバスを使用する人は、多くは病院へ行く高齢者と思われがちであるが、コミュニティバスがより充実したものになれば、田中の商店街へ昼夜問わず(コミュニティバスは、その運用の仕方では夜間を超行可能とのこと。飲酒等でリーズナブルな足になったり、朝夕の登下校時における児童生徒の送迎、スクールバスにもなるものです。</p> <p>アンケートは、その意義は大きいですが、現在のこの車社会(車の便利さ)において、その利便性を多くに知っていただいた後(理解していただいた後)のアンケートは、その利便性を体験する前とそのアンケート回答内容が大きく変わるものと思料します。</p> <p>今まで(コロナ禍など)(バスが理解されていない状況)での実証実験での数値(利用者数など)でコミュニティバス(公共交通)が必要ないと判断することは早計であり、10~20年後に大きな悔いを残すこととなります。</p>	その他	ご意見として承りました。